

R3 香大医学部看護学生の訪問ボランティアの取り組み

R3.4.4 運①

1 ボランティア活動が始まった経緯

平成28年10月、香川県支部設立当初より香大医学部看護学科の峠先生に顧問になっていただき、翌年度から学生に支部総会や研修会の運営協力をお願いしてきた。学生への周知や募集は同学科の清水先生が担当された。清水先生は、顧問の部活動「ボランティアサークル」の学生の有志と毎年東南アジアへ医療ボランティアに行かれていたが、学生に患者へのボランティア経験を増やしたいということから本支部に相談があった。下記(2)の目的は清水先生と話し合っていたこともあり、令和元年度よりボランティアサークルによる在宅患者(支部長)への訪問ボランティアを試行し始めた。ただ、令和2年度はコロナ感染の影響で昨年の11月からリモート交流に変わり(支部長と2回試行)現在に至っている。リモート交流には臨床心理学科の学生も参加することになった。

2 目的

- ・学生のボランティア活動を通して、ALS患者の対人的かかわりや楽しみを広げる。
- ・ALS患者・家族の実生活に接することで、学生のALSに対する理解と資質を高める。
- ・支部活動を充実させていくためのボランティア活動の生かし方を探る機会とする。

3 本年度の計画

(1) リモート交流の実施

- ・主催はボランティアサークルでZoomを使った交流会(昨年度は自己紹介、誕生会)
- ・参加者はボランティアサークルと臨床心理学科学生十数名、在宅患者4名(予定)
- ・3月末締め切りのリモート交流会参加希望アンケートで希望者の動向を把握
- ・具体的な交流内容、期日等は今後学生と検討
- ・患者の参加をしやすくするため、Zoomアプリのインストール、設定等の支援も可
- ・患者同士だけのリモート交流も可
- ・将来的に入院患者の参加も増やしたい。

⇒リモートでどんな活動ができるかを探りたい。

(2) 訪問ボランティアが可能になったら

- ・リモート交流会参加者を対象に訪問希望を取る。
- ・ボランティア内容、訪問日時等は患者・家族と相談・検討
- ・学生の身体介護等は家族や訪問看護師の補助的ポジショニングのみ可
- ・学生の活動の保障はボランティア保険で対応

○令和元年度に取り組んだ内容

自宅で自己紹介、着替え補助、ショッピングセンターで車椅子を操作、文字盤での会話、誕生会開催、研修会(リハセンター)へ同行、お遍路(県外)へ同行